

学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係わる支援

学生の修学に係る支援は広範囲にわたるとともに、内容によっては複数の部署が協力して当たっているケースが多々ある。一例を挙げれば、本学では教学の委員会として学生支援委員会があり、事務組織に学生支援課があるが、これらの部署が常時連携して支援にあたっている。従って、ここでは本学の支援体制について概略的に説明せざるを得ない点があることをお断りおく。本学の修学支援体制について、以下学生生活支援、修学支援、留学生支援、心身の健康等に係る支援、障害者支援、進路選択支援の順で説明する。

○学生生活支援

学生支援委員会と学生支援課は、経済的な支援と生活面での支援を行う。

経済面の支援では、おもに、「学校法人駒澤学園奨学金」と「独立法人日本学生支援機構の奨学金」を扱う。前者は授業料半額相当を授与するものである。

生活面での支援として、まず、親元を離れて生活する学生のために、指定学生寮と推薦学生寮を紹介する。また、「Komajo グッドスタートプログラム」を提供している。これは、「わたくしを磨き、ひとを支える」をモットーに、学生たちが大学生活を通じて、自立した女性の第一歩として、自分を成長させる楽しさを知り、人を支える喜びを知ってもらうようにと、放課後に開催されるプログラムである。具体的には、スポーツ、コミュニケーション講座、マナー講座、クッキング、AED 講習・実習など、幅広い内容を用意している。また、そうした講座・実習への参加意識を涵養するために、参加者に「スタンプラリーカード」を配布しているが、そのデザインは学内コンペティションで選考され、毎年多くの学生と教職員が投票に参加している。

○修学支援

修学支援は教務課および教員を中心として適宜指導にあたっているが、その範囲は多岐にわたるため、ここではまず履修指導の体制を中心に説明する。

まず、4月のオリエンテーションにおいて各学科の教務委員が学年毎に履修の説明を行っている。そのなかでは、併せて正課学外活動を含む科目については、担当教員が科目の内容説明と履修にあたっての諸注意をしている。

教務課では、4月上旬と9月下旬の5日間、ポータルサイトによるWeb履修を実施し、5月中旬と10月中旬に3日間の履修確認変更期間を設け、履修登録の内容を学生自身が確認し、過不足があれば追加と削除を行えるようにしている。特に4年生については、「卒業できる履修登録」となるよう教務課職員が登録内容をチェックし、不足があれば追加するよう勧める等、履修登録の段階で卒業要件を満たさず卒業できなくなる学生がいないよう配慮している。また他の学年についても履修に関する質問を受けた際、学年・学科の特性を踏まえた上でわかりやすい説明をすることはもとより、単に質問に答えるだけでなく、例えば質問内容に関連した事項の学生便覧掲載箇所を一緒に見ながら説明をする等、次に疑問が湧いた際に自ら解決できるよう指導している。また半期に一度、学年ごとに標準修得単位数に満たない学生を網羅した一覧表を作成し、教員による履修指導用資料として各学科に配付している。

また、教員側の履修支援として、前・後期の履修登録期間の5日間、昼休みと4時限終了後の40分間、学科ならびに教職担当の教員がそれぞれ2名体制で「履修相談コーナー」を設け、履修の個別相談に応じている。なお、専門ゼミの履修については、2年次に各学科で専門ゼミ説明会を実施している。このように、本学では教員と教務課職員が協働できめ細かな履修指導を実施している。

その他、修学上の支援部署として平成23年度に開設された学修支援センターがある。本センターは、総合的な学生支援体制の確立のために、教育課程以外で、広範囲にわたって学生支援を下支えする全学的機関である。基本方針は、入学前から卒業まで一貫して基礎学力の補助指導を行うことである。ただし、従来よく考えられてきたような、学業不振者のみを対象としたものではなく、学業優秀者を含めた基礎学力向上を目標に掲げ、全学生を対象として学習成績の底上げをはかる。その結果として、就職筆記試験の合格率向上、国家試験の高い合格率達成を目指す。その具体的なプロジェクトは以下の4点である。

1. 基礎学力育成支援プログラム

2. 国家試験受験のための基礎力養成
3. 各種資格・検定への対応
4. 当センターが主催する学習支援セミナーの実施など

○留学生支援

留学生の支援体制は、留学生委員会と学生支援課を中心に学生チューターを加えた体制であっている。

留学生委員会は、毎年4月に個別面談を行うことで留学生の状況把握に努めている。また、オリエンテーション期間には在籍している留学生・教職員・学生チューターが参加する新入歓迎会および秋には募集により参加する日本人学生も加わって東京の名所を散策する遠足を開催している。卒業後の進路については、留学生委員会・学生支援課が進路総合センターと連携してさまざまな相談に対応している。そのほか、成績優秀者には授業料の減免制度を実施している。

学生チューターは、入学時におけるオリエンテーションと健康診断に同行するなど、入学時の不安解消に努めるほか、定期試験準備やレポート作成のアドバイスを行っている。日常的には、大学館1階にブースを設置しており、ここはチューター以外の日本人学生も気軽に立ち寄って留学生と交流できるスペースとしての機能を果たしている。

○心身の健康等に係る支援

＜学生相談室及び保健室＞

学生相談室では、履修や勉強方法、友人関係その他学生生活全般、心理的問題、セクハラや犯罪被害に関する事などについて相談を受け付けており、学生生活を送る中で生じる様々な悩みに対応している。スタッフは、専任のカウンセラー2名、臨床心理士資格を持つ教員3名（うち1名が相談室の責任者）、各学科の相談担当教員及び受付担当の事務職員で構成されている。

開室時間は土日、祝祭日を除く平日の午前9時から午後5時までである。原則予約制だが、学生のニーズに応じて柔軟に対応しており、いつでも気軽に相談しやすいような雰囲気や体制作りを心がけている。その他、保健室と共同でニュースレターを隔月発行し、学生に心身の健康管理に関する情報提供を行っている。

なお、学生に対して守秘義務を負うことは当然だが、相談内容によっては、学生の了解を得た上で、保健室や学生支援課等とも連携を図り、他の相談機関や医療機関を紹介する場合もある。

＜駒沢学園心理相談センター＞

駒沢学園心理相談センターは、地域に開かれた「こころの相談」のための専門機関として相談活動を行っている。センターのスタッフは、臨床心理士の有資格者である5名の教員とインテイク・受付を担当する1名の職員から構成されている。当センターは、地域への働きかけ以外に、本学大学院臨床心理学専攻の大学院生の臨床心理実習機関としての役割を担っている。有資格者の教員の指導のもとで、来談する本学大学生や中高生の心理相談にあたっている。また、大学の学生相談室や保健室とも適宜連携をとって心理的支援を行っている。

○障害者支援

障害者支援については、学生支援課が障害者の在籍状況等の確認を行い、各部署が連携する支援体制を整えている。具体的には次のような手順となる。

1. 健康診断・環境調査書もしくは本人・家族からの申し出により学生支援課が障害の状況を把握する。また、必要に応じて面談を実施する。
2. 学内における学生生活・授業・試験において支援が必要と判断された場合、学生支援課が教務委員会・学生支援委員会・学科・学生相談室・保健室のそれぞれの責任者が対策会議を開き、対応を協議する。協議にもとづいて出された具体的方策を各委員会・学科会議等に連絡して協力を要請する。
3. 医療機関や行政など学外との連携が必要な場合、学生支援委員会が当該の外部機関とも協力することでサポート体制をより充実させる。
4. 障害者の進路については、就職等の希望がある場合、進路総合センターの相談窓口が障害者対象の求人情報を提供して対応する。

○進路選択

進路総合センターでは、学生が主体的に進路を開拓できるように環境を整備し、計画的な指導を実施している。その一環としてガイダンス・セミナー・講座がある。就職活動の準備から活動の方法まで具体的・体系的にプログラムされた「就職ガイダンス・セミナー」に加えて、「就職活動直前集中講座」では模擬面接も実施しているので、万全の体制で就職活動のスタートを切ることができる。「マナー講座」では、日常生活の基本的なマナーから、社会人に求められる常識・マナー・スキルまで指導している。資格取得を目指す学生には、「ビジネスキャリアアップ講座」「販売士検定受験対策講座」「ファイリング・デザイナー検定受験対策講座」など、さまざまなスキルの習得を目指す講座も開講している。さらに、社会人として活躍している卒業生の就業体験や、就職内定を得た先輩による活動報告と交流会を実施。アットホームな雰囲気の中、先輩たちから就職活動と就業することの実際を学ぶことができる。

恒常的に利用できる設備・施設としては、まず「駒沢女子キャリアナビ」がある。これは、本学の学生専用のシステムで、最新の求人情報をインターネットで検索・閲覧することができる。さらに、毎年更新・発行している「キャリアハンドブック」は、就職活動の心構え、会社訪問のマナー、手紙や履歴書の書き方など、さまざまなノウハウを満載した進路マニュアルで、大学3年次、短大2年次に全学生に配付している。センターにある資料室では、求人票・会社案内・採用試験要項等を閲覧することができる。業界研究書・筆記試験対策書などの進路に関する書籍の貸し出しも行っている。もちろん大学院・大学・専門学校等についても最新の資料がそろっている。資料室には、自由に使えるコンピュータが10台設置してあるので、資料の検索やエントリーシート作成、コピーや印刷も可能である。

センター職員は学生と個別面談を実施し、進路の希望や特性を十分に理解したうえで、履歴書・提出書類の添削から進路の悩みの相談まで、さまざまな支援を行っている。学生の能力・性格・適性を熟知しているゼミ担当教員、短大ではクラス担任と常に連携しながら、より効果的な対応を推進している。これにより、刻々と変化する学生の状況を的確にとらえ、タイムリーな支援が可能となっている。

また、卒業後に進路変更を行う場合の相談も受けつけ、生涯支援を目指している。